

○釜石での働き、飯野司祭から下澤司祭にバトンタッチ

飯野正行司祭は、4月7日に釜石に着任以来、1か月にわたる働きを終えて、5月7日（土）帰途に。飯野司祭が留守の間にオホーツク3教会は、イースターを迎え、復活日礼拝は、札幌キリスト教会より池田司祭が紋別聖マリヤ教会・北見聖ヤコブ教会・網走聖ペテロ教会に派遣され守られました。1か月の間のオホーツク3教会のご理解とお支えに感謝。また、後任者として下澤昌司祭が5月5日（金）に釜石入り。飯野司祭との引き継ぎが行われ、今後一か月の予定での働きがスタート。この間、帯広聖公会の皆様を始め教区全体で留守の間の働きをお支えしましょう。飯野司祭着任の間、支援物資の配布など緊急的な支援から継続的な支援へと被災地での必要も刻々変化してきました。飯野司祭の働きを通して築かれた、釜石神愛教会・神愛幼稚園や地域の被災者・支援グループとの信頼関係を基礎に、新しい段階の働きが下沢先生を中心に模索される第二段階を迎えます。

○ボランティアの働き

- ・雨宮信喜さん（岩見沢聖十字教会信徒）は、4月16日（土）～20日（水）の間、釜石にて奉仕され、釜石の状況や支援活動の可能性について、ファミリーサポート聖十字広場職員としての経験を踏まえての貴重な示唆をいただきました。
- ・岩崎良平さん（稚内聖公会信徒）は、4月16日（土）～5月5日（木）の長期間にわたり、飯野司祭を助け、また被災教会でもある日本基督教団釜石新生教会で行われている支援活動もサポートされエキュメニカル（超教派）での働きにも貢献されました。
- ・一花徹さん（藤沢聖マルコ教会・元聖マーガレット教会信徒）は、5月2日より現地入りされ、約10日間の予定で活動されます。

○ボランティアの登録に関して

22名の方々が登録され、現在まで10名の方が釜石を訪ねました。又3名は、教区支援室の事務スタッフとして奉仕下さっています。一方、現地に行っていただく時期や期間、活動の内容は、現地の状況に合わせて支援室で随時決定していますので、登録された方々の希望に必ずしも添う事ができないケースがある事を、改めて了承下さい。仙台に日本聖公会の震災支援オフィスができ、各地の支援を企画・統括する機能が整備されましたので、釜石以外の活動に派遣される可能性も出て来ました。尚、ボランティア登録カードは、各教会に配信され、教区のホームページからダウンロードする事もできます。支援活動が、長期となる事を予想していますので可能な時期をご登録下さい。

○支援物資について

各教会から支援物資の送付は停止中です。

現地では既に支援物資が行き渡っている事や、地元商店が開店し始めた事、神愛教会の保管スペースの関係などから、支援物資の受け入れを停止しています。

○支援活動用車両は、「ミニ四駆フランス号」

活動用車両として、板原進さん（京都教区・上野聖ヨハネ教会信徒）より提供をいただいて車両は、支援活動に欠かせないものとして役立てられています。現地では「ミニ四駆フランス号」の愛称で呼ばれています。東北教区震災支援室代表の長谷川清純司祭、釜石神愛教会の協働司祭である中山茂司祭、そして飯野司祭の教名が揃って「フランス」である事にちなんでの命名です。「平和の祈り」携えて被災地を今日も走っています。

○管区の動き

震災被災地の各地で展開されてきました「緊急支援活動」を、「地域復興支援活動」として長期的に展開するため、日本聖公会は、仙台に専任者を配置し「支援オフィス」を設けました。日本聖公会や関連団体（立教大学など）が持っている賜物を適切に活用して広範な復興支援にあたる事となります。

【以下は、飯野先生が毎日支援室に報告されている通信から引用です】

◎【4月24日(日)】 被災地での復活日聖餐式。理事長ご夫妻、園長高橋仁美姉、松田兄、岩崎兄、飯野の6名の聖餐式。仁美姉は、週報を作り、オルガニストをされ、オルターをされ、園だけではなく、教会でもとても大きな存在です。本日の礼拝では、旧約が松田兄、使徒書を岩崎兄が朗読。理事長の高橋章介兄は点鐘と代禱をされました。週報のお知らせ欄には「こんなに待ち遠しくイースターを迎えたのは、私達の人生で初めてのようになります」とあり、今回のイースターには特別の意味合いがあったのだと感じました。司式の最中にも地震があり、私の背中の中で（ここは東面礼拝です）「あ、地震だ」の声がしていましたが、よほど強い揺れでない限り続けようと思いましたが私は続けました。揺れはすぐに治まりました。礼拝終了後の理事長夫人の「本当に幸せでした」の言葉に、やはり特別な意味合いがあった事を実感いたしました。

◎【4月27日(水)】 テレビに映る瓦礫片付け作業はやはりインパクトが強いですし、問い合わせの声も聞いた事がありますので、私自身、把握したいと考え、行ってみました。お聞きしたところ、今は全部、業者（建設業等）に委ねているそうです。つまり、ボランティアではなく「仕事」です。自衛隊もやっていますし、業者による重機でも作業していますし、人力で拾える程度の片づけはもういない形です。つまり、専門職による瓦礫片づけが今は求められているという事です。一つ心に留めるべき事は、仕事を求める被災者の仕事を奪わないという事です。

◎【5月2日(月)】

午後は、これからの活動（殊に、一花兄が来られてから、下澤司祭が来られてからの事）について確認・調整いたしました。明日より3日間保育園がお休みになる事と5日朝に岩崎兄が帰られる関係で、岩崎兄は園児たちの所へ招かれ「感謝・お別れ会」がなされ、園児たちよりプレゼントもいただいたようです。岩崎兄も目頭が熱くなったようです。夕食は理事長宅でいただきました。

◎【5月4日(水)】 明朝、岩崎兄が帰道されます。岩崎兄には大変お世話になりました。とても良く気付かれる方でこまめに動かれる方でした。毎朝、園の庭掃除をされました。料理もしてくださいました。物資を運ぶ段取りをつけて下さったり、地域の集積所の方々ともすぐにうちとけた交わりをもたれていました。大変お疲れになった事と思います。岩崎さん、本当にお疲れ様でした。感謝しています。

◎【下澤司祭からの第一信】 無事に釜石に入りました。こちらに来るまでは漠然と想像していましたが、いざ来て自分の目で見てみると、あまりの茫漠とした街並みに衝撃を受けています。とんでもないことが起こったのだと。今日は飯野先生に連れられて数箇所の集積所をまわり、挨拶をしました。やはり、物資の面では事足りているようです。それにしても深い感動を覚えるのは、ここに至るまでの飯野先生のお働きです。さまざまな人たちが飯野先生に感謝し、助けられたと言っています。なりふりかまわず、一心不乱に被災者のために物資をもって訪問を繰り返されたのでしよう。まったくもって頭が下がります。ぜひ、労をねぎらってあげてください。教会とは縁もゆかりもなかった人々が、飯野先生の働きを通して、教会に親しみを持っているようです。感謝です。

【震災支援室からのお願い】

◎「定期便」と銘打っていましたが、2週間にわたり欠号となり申し訳ありませんでした。今後隔週での発行を考えています。今後ともよろしく願いいたします。

◎ ニュース定期便は、各教会において掲示下さると共に、増刷して配布ください。

◎ 教会や個人での取り組みについても、お知らせください。他の教会の活動の参考になります。

【連絡・問合せ先】 電話：011-561-0451、ファクス：011-736-8377

Eメールアドレス：saigai@nsskk-hokkaido.jp